

第11回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

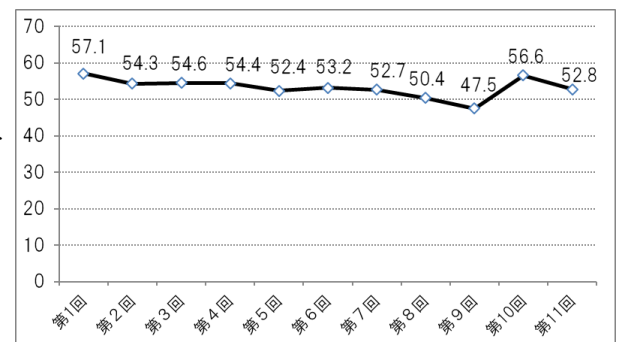
県では、平成24年(2012)年4月に、おおむね10年先を見据えた県の戦略計画「みえ県民カビジョン」を策定し、その中で、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げたことから、「みえ県民意識調査」により、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用してきました。

今回、令和4年1月から2月にかけて実施した「第11回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

I 調査の概要等

- 1 調査期間 令和4年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
調査票の回収は、記入した調査票の返送又はインターネット上での回答
- 3 有効回答数 5,277人、有効回答率52.8%
(郵送回答75.3%、Web回答24.7%)

図表1 有効回答率の推移



4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ 行動計画に関すること
- ・ ご家族に関すること
- ・ 県政の情報の入手等に関すること

5 その他

第11回みえ県民意識調査の集計結果(確報)をまとめた報告書は、7月下旬以降に県庁や各県庁舎(地域防災総合事務所、地域活性化局等)に配置する予定です。

[URL https://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/](https://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/) (「みえ意識」で検索)

6 回答者の属性

図表2 回答者の属性

属性	属性項目	件数	構成比(%)		(前回差)
			今回	前回	
地域	北勢	2,453	46.5	44.3	(2.2)
	伊賀	500	9.5	9.0	(0.5)
	中南勢	1,419	26.9	28.3	(-1.4)
	伊勢志摩	675	12.8	12.9	(-0.1)
	東紀州	177	3.4	3.6	(-0.2)
	不明	53	1.0	1.8	(-0.8)
性別	男性	2,302	43.6	49.4	(-5.8)
	女性	2,899	54.9	49.5	(5.4)
	その他・不明	76	1.4	1.1	(0.3)
年齢	18歳から20歳代	254	4.8	4.9	(-0.1)
	30歳代	475	9.0	9.8	(-0.8)
	40歳代	878	16.6	18.0	(-1.4)
	50歳代	1,164	22.1	20.6	(1.5)
	60歳代	1,262	23.9	22.9	(1.0)
	70歳以上	1,141	21.6	22.7	(-1.1)
	不明	103	2.0	1.0	(1.0)
	主な職業	農林水産業	93	1.8	2.1
自営業・自由業		486	9.2	8.7	(0.5)
正規職員		1,474	27.9	30.5	(-2.6)
パート・バイト・派遣		1,129	21.4	19.5	(1.9)
その他の職業		343	6.5	5.9	(0.6)
学生		91	1.7	1.3	(0.4)
専業主婦・主夫		655	12.4	11.2	(1.2)
無職		928	17.6	18.7	(-1.1)
不明		78	1.5	2.2	(-0.7)
配偶関係		未婚	641	12.1	12.3
	有配偶	4,041	76.6	76.6	(0.0)
	離別・死別	539	10.2	10.5	(-0.3)
	不明	56	1.1	0.7	(0.4)
世帯類型	単独世帯	371	7.0	7.3	(-0.3)
	一世代世帯	1,651	31.3	31.1	(0.2)
	二世帯世帯	2,548	48.3	50.0	(-1.7)
	三世帯世帯	564	10.7	9.7	(1.0)
	その他世帯	66	1.3	1.1	(0.2)
	不明	77	1.5	0.8	(0.7)
世帯収入	100万円未満	235	4.5	4.7	(-0.2)
	～200万円未満	469	8.9	9.3	(-0.4)
	～300万円未満	770	14.6	14.5	(0.1)
	～400万円未満	621	11.8	12.7	(-0.9)
	～500万円未満	560	10.6	10.3	(0.3)
	～600万円未満	514	9.7	9.3	(0.4)
	～800万円未満	726	13.8	13.4	(0.4)
	～1,000万円未満	448	8.5	8.6	(-0.1)
	1,000万円以上	470	8.9	8.0	(0.9)
	わからない	375	7.1	6.2	(0.9)
	不明	89	1.7	2.9	(-1.2)
有効回答数		5,277	100.0	100.0	

Ⅱ 集計結果（概要）

1 幸福感

(1) 日ごろ感じている幸福感

問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています。

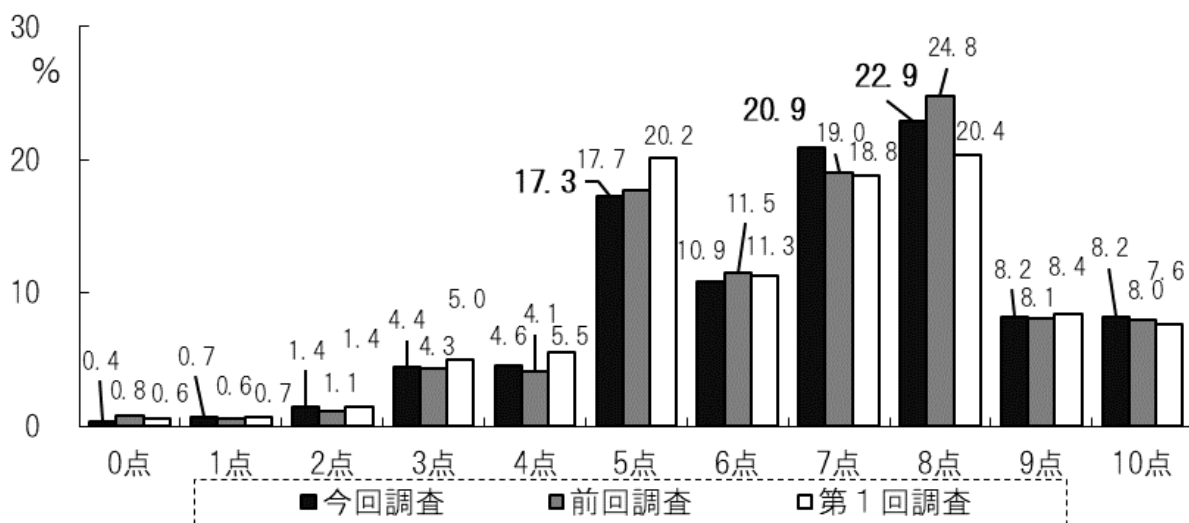
県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、**平均値は6.73点で、前回調査より0.01点低く、第1回調査より0.17点高くなっています。**

点数の分布をみると、「8点」の割合が22.9%と最も高く、次いで「7点」が20.9%、「5点」が17.3%となっており、M字型となっています。

図表3 日ごろ感じている幸福感の平均値



図表4 日ごろ感じている幸福感の分布



図表5 日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)

	今 回 点	(前回差) ポイント	<第1回差> ポイント
合計	6.73	(-0.01)	<0.17>
地域			
北勢	6.73	(0.02)	<0.09>
伊賀	6.70	(-0.09)	<0.19>
中南勢	6.74	(-0.11)	<0.20>
伊勢志摩	6.68	(0.05)	<0.27>
東紀州	6.79	(-0.01)	<0.32>
性別			
男性	6.54	(-0.02)	<0.22>
女性	6.88	(-0.07)	<0.08>
年齢			
18歳から20歳代	6.71	(-0.11)	<->
30歳代	6.94	(0.06)	<0.09>
40歳代	6.79	(0.11)	<0.22>
50歳代	6.66	(-0.06)	<0.16>
60歳代	6.78	(-0.02)	<0.29>
70歳以上	6.66	(-0.07)	<0.11>
主な職業			
農林水産業	6.86	(0.00)	<0.36>
自営業・自由業	6.84	(-0.04)	<0.19>
正規職員	6.83	(0.05)	<0.14>
パート・アルバイト・派遣	6.66	(-0.07)	<0.27>
その他の職業	6.65	(-0.10)	<-0.02>
学生	7.08	(0.07)	<0.50>
専業主婦・主夫	7.05	(-0.05)	<0.01>
無職	6.35	(-0.06)	<0.12>
配偶関係			
未婚	5.95	(0.06)	<0.18>
有配偶	6.93	(-0.02)	<0.15>
離別・死別	6.19	(-0.04)	<0.09>
世帯類型			
単独世帯	5.93	(-0.11)	<-0.06>
一世代世帯	6.92	(-0.04)	<0.18>
二世帯世帯	6.71	(0.00)	<0.21>
三世帯世帯	6.92	(0.04)	<0.10>
世帯収入			
100万円未満	6.37	(0.56)	<->
~200万円未満	5.98	(-0.29)	<->
~300万円未満	6.38	(-0.23)	<->
~400万円未満	6.62	(0.04)	<->
~500万円未満	6.65	(-0.12)	<->
~600万円未満	6.92	(0.02)	<->
~800万円未満	7.18	(0.08)	<->
~1,000万円未満	7.18	(-0.03)	<->
1,000万円以上	7.43	(0.04)	<->

※年齢の18歳から20歳代については、第6回調査からの調査項目であるため、第1回調査と比較を行っていません。

※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

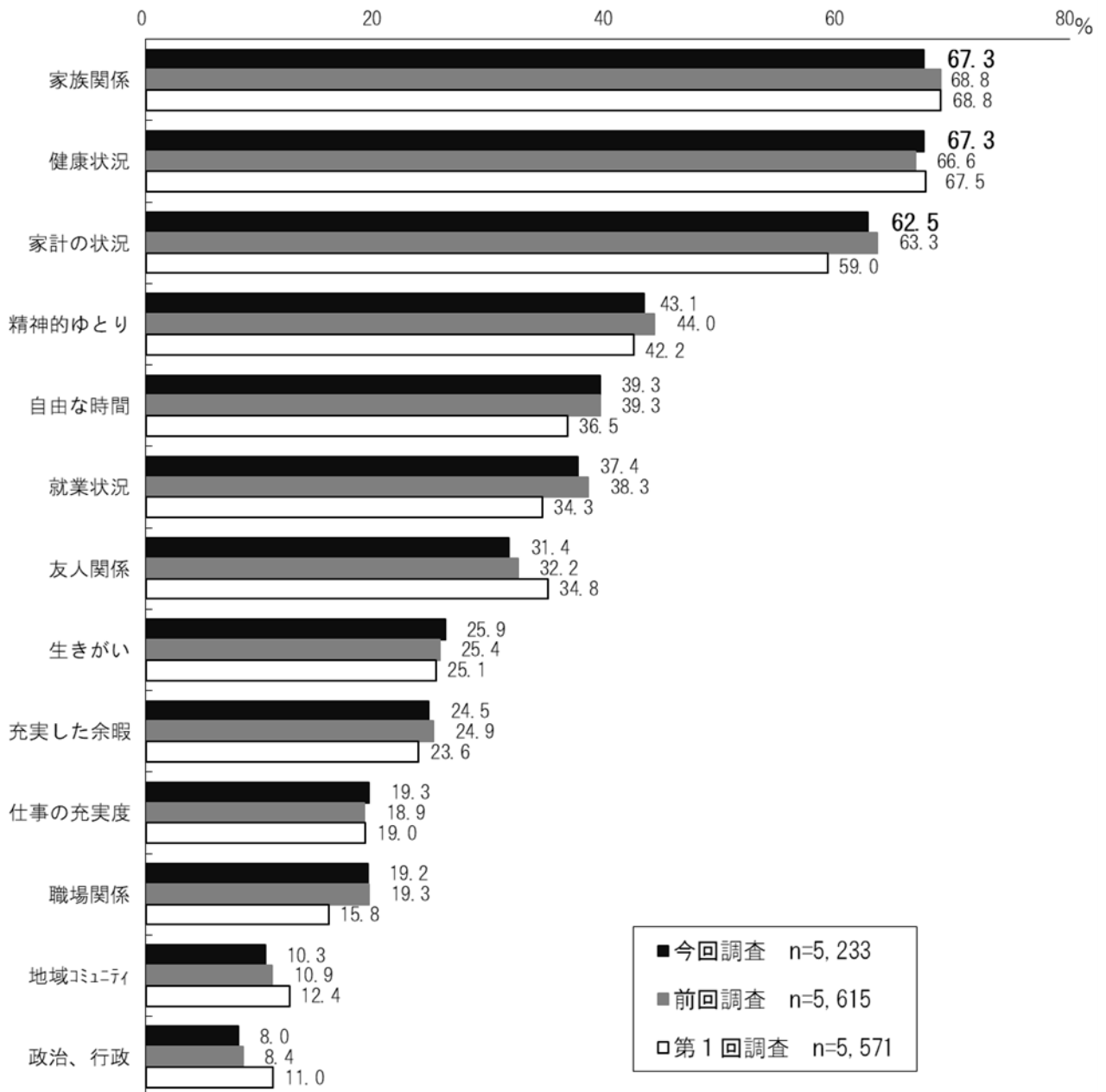
問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。(〇はいくつでも)

※第1回調査から継続して質問しています。

幸福感を判断する際に重視した事項は、「家族関係」、「健康状況」の割合が67.3%で最も高く、次いで、「家計の状況」(62.5%)となっています。

これまでの調査で、「家族関係」では、第1回～第3回、第6回、第7回調査、第10回調査で、「健康状況」では、第4回、第5回、第8回、第9回調査で最も割合が高くなっています。

図表6 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答]



(3) 幸福感を高める手立て

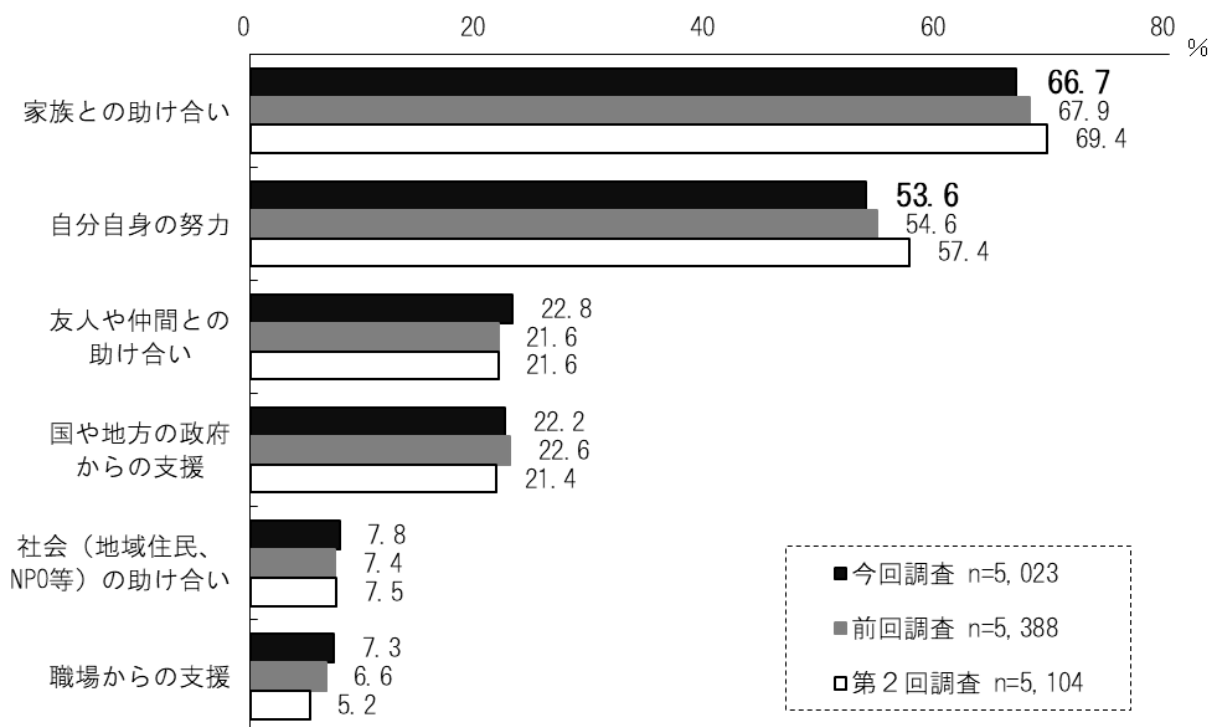
問1-3 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。(〇は2つまで)

※第2回調査から継続して質問しています。

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が 66.7%で最も高く、次いで、「自分自身の努力」(53.6%)、「友人や仲間との助け合い」(22.8%)の順となっています。

前回調査との比較では、「友人や仲間との助け合い」が1.2ポイント高く、「家族との助け合い」が1.2ポイント低くなっています。

図表7 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



2 地域や社会の状況についての実感

「地域や社会の状況についての実感」は、平成 24 年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した 15 の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

問2 地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします。

次の(1)から(15)までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスを利用できていると感じますか。
- (3) 必要な福祉サービスを利用できていると感じますか。
- (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境が守られていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっていないと感じますか。
(第9回調査で質問を変更)
- (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。
(第5回調査で質問を変更)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる 2 どちらかといえば感じる

3 どちらかといえば感じない 4 感じない 5 わからない

※(5)(6)(8)(9)を除き、第1回調査から継続して質問しています

○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感をおききしたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」が86.2%で最も高くなっています。次いで、「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(75.3%)、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(68.9%)の順で、これまでの11回の調査を通じて同順位となっています。

○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合は、「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が64.6%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(57.6%)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(56.9%)の順となっています。

○前回調査との比較

前回調査より「実感している層」の割合が高くなったのは、15項目のうち3項目で、増加幅が大きかったのは「(2)必要な医療サービスを利用できている」(+0.5ポイント)、次いで、「(3)必要な福祉サービスを利用できている」(+0.4ポイント)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+0.3ポイント)の順となっています。

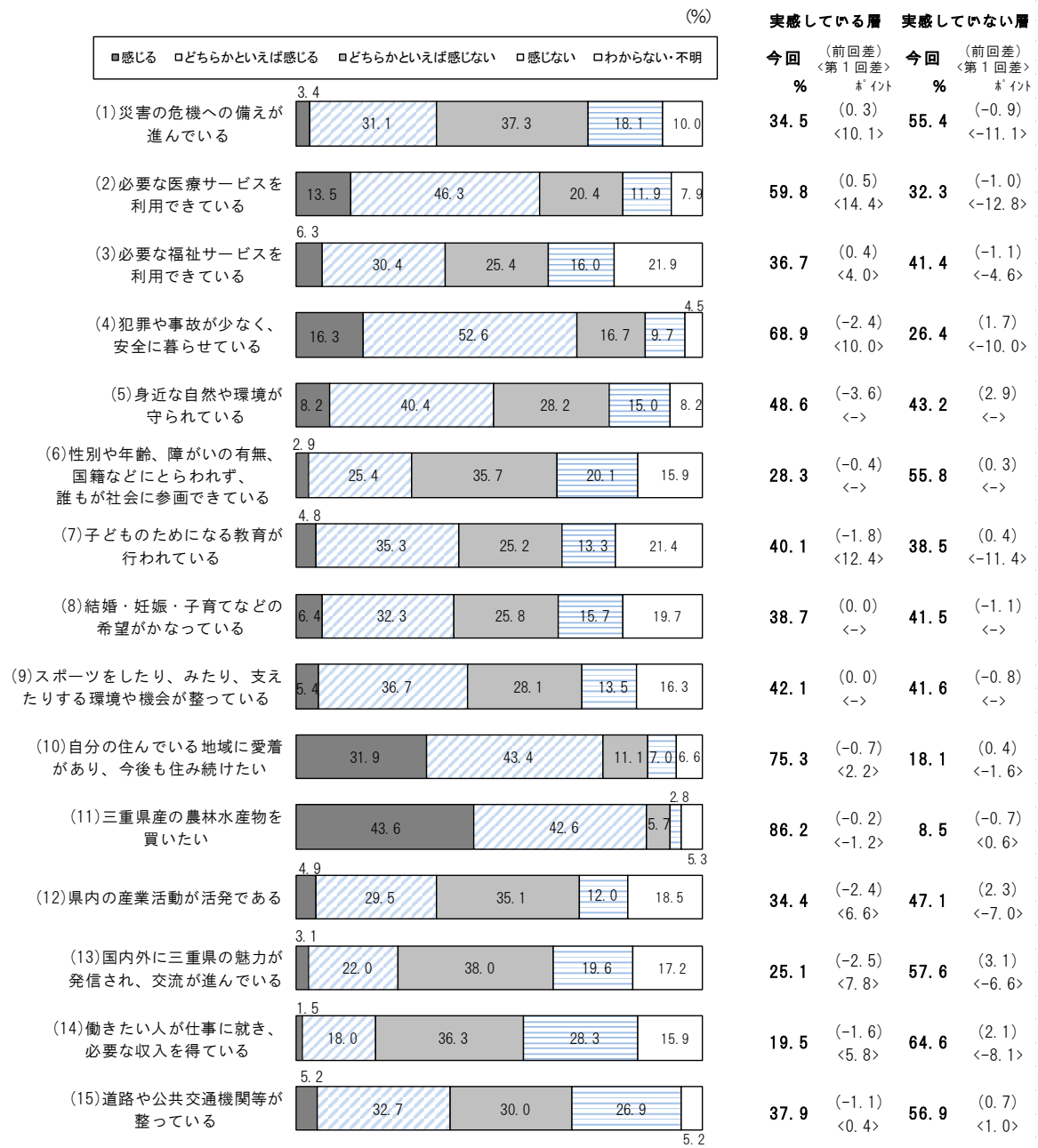
一方、「実感していない層」の割合が高くなったのは、9項目で、増加幅が最も大きかったのは、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+3.1ポイント)となっています。

○第1回調査との比較

第1回調査から質問内容を変えずに継続的におききしている11項目のうち、第1回調査より「実感している層」の割合が高くなったのは10項目で、増加幅が最も大きかったのは「(2)必要な医療サービスを利用できている」(+14.4ポイント)、次いで、「(7)子どものためになる教育が行われている」(+12.4ポイント)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+10.1ポイント)の順となっています。

一方、「実感していない層」の割合は、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+1.0ポイント)、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+0.6ポイント)を除く9項目で第1回調査より低くなっています。

図表8 地域や社会の状況についての実感（一覧）



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出
 ※第5回調査以降で質問を変更したものは、第1回調査と比較していない

3 ご家族に関すること

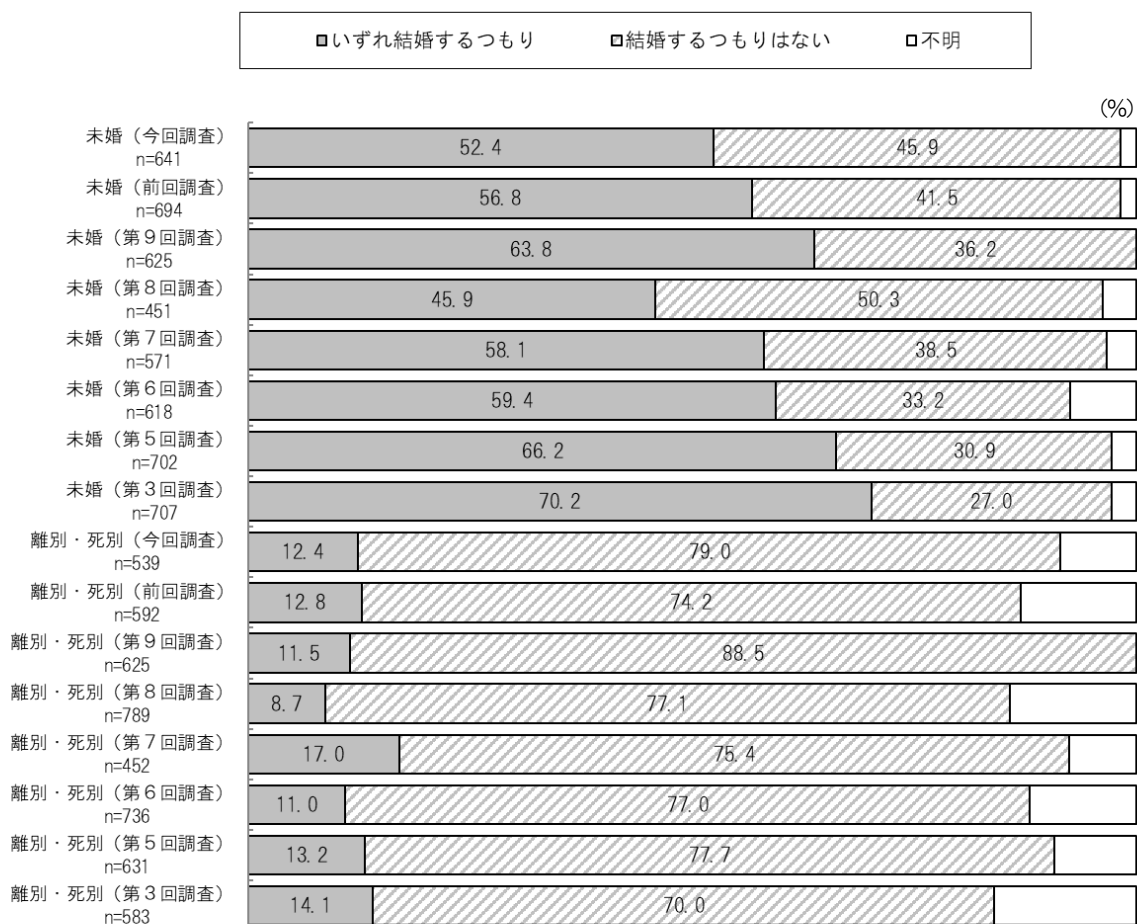
(1) 結婚に対する考え方

問11 今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

※第3回、第5～10回、今回調査で質問しています。

- 結婚に対する考え方について、未婚の方は「いずれ結婚するつもり」が52.4%、「結婚するつもりはない」が45.9%となっています。離別・死別した方は「いずれ結婚するつもり」が12.4%、「結婚するつもりはない」が79.0%となっています。

図表9 結婚に対する考え方



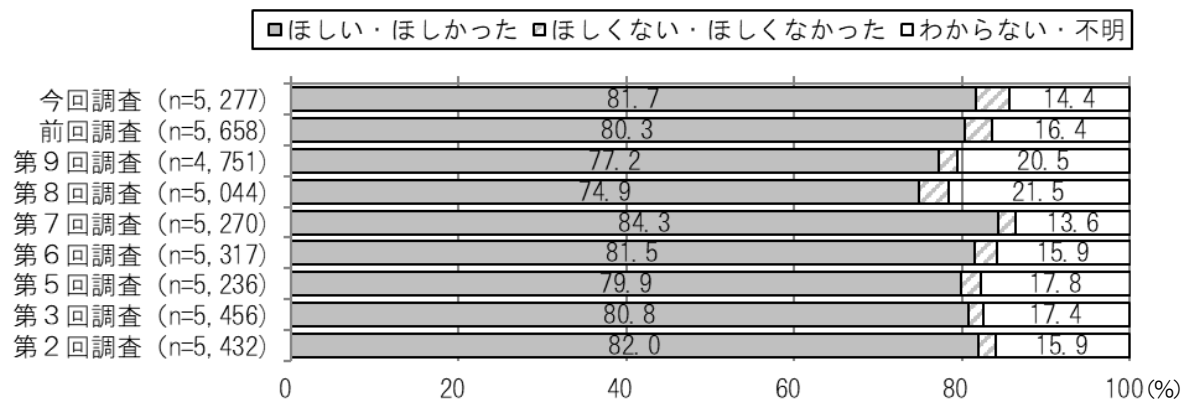
(2) 子どもを希望する割合

問12 あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいはほしかったですか。

※第2回、第3回、第5回～10回、今回調査で質問しています。

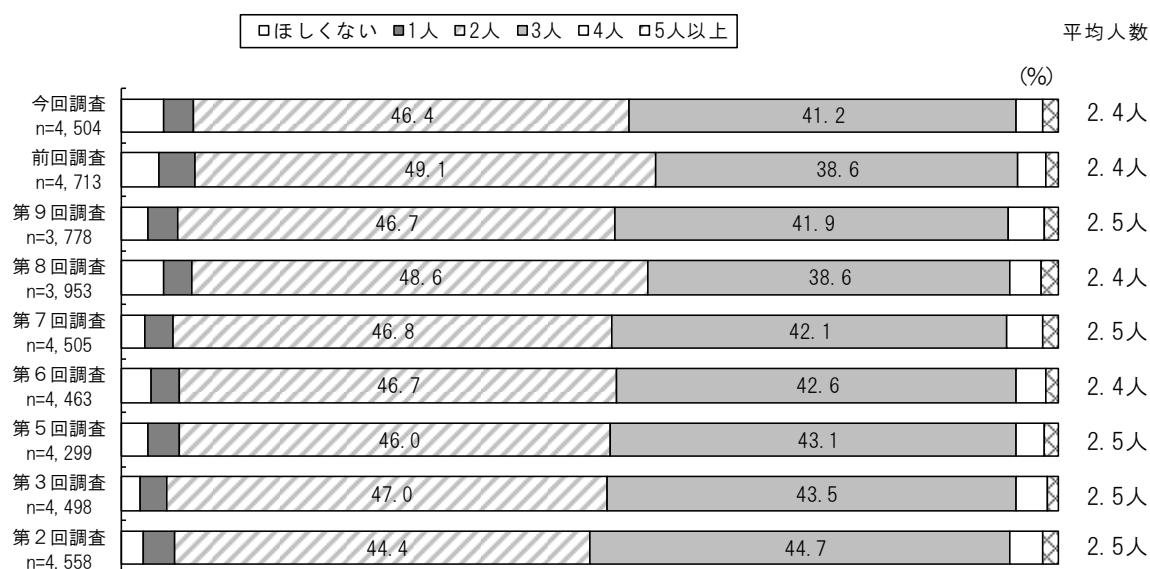
- 子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は81.7%で、前回調査より1.4ポイント高くなっています。

図表10 子どもを希望する割合



- 理想の子どもの数について、「2人」の割合が46.4%で最も高く、次いで「3人」(41.2%)となっています。前回調査と比較すると「ほしくない」、「3人」、「5人以上」の割合はそれぞれ高くなっています。理想の子どもの数の平均は2.4人で、前回調査と同様の結果となっています。

図表11 理想の子どもの数の推移



※理想の子どもの人数が明記された回答及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。

※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

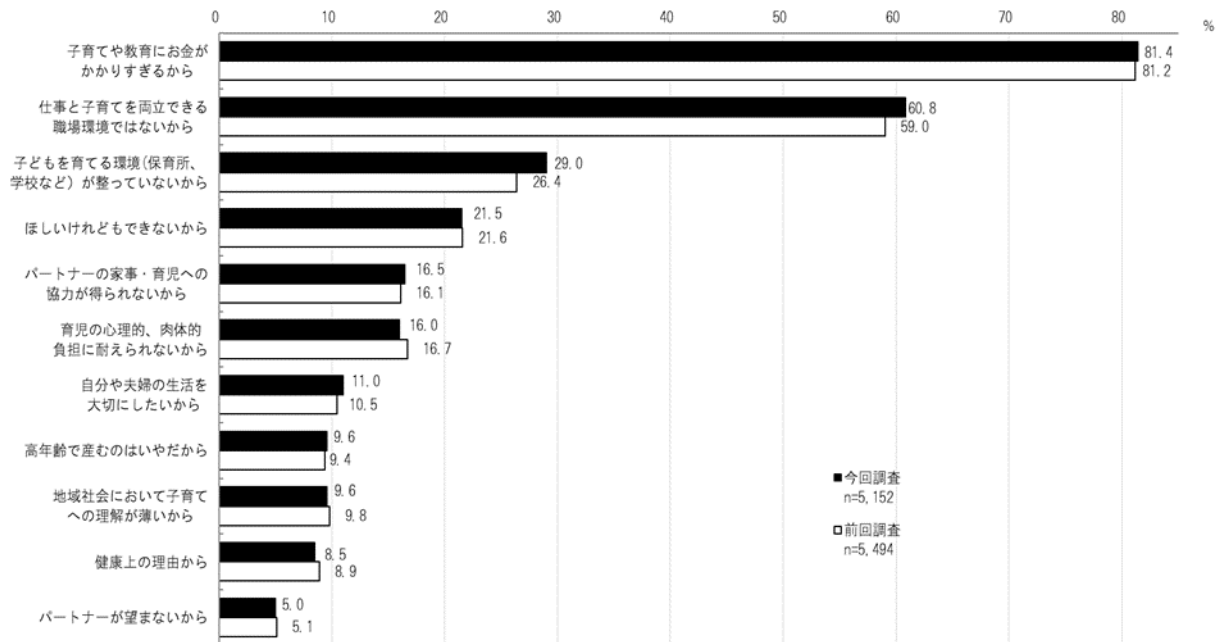
(3) 理想と現実の子どもの数のギャップの理由

問14 これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという結果がでています。この理由として、あてはまると思うものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

※一部設問を変更しています。

- 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由を質問したところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が81.4%と最も高く、次いで「仕事と子育てを両立できる職場環境ではないから」(60.8%)、「子どもを育てる環境(保育所、学校など)が整っていないから」(29.0%)の順となっています。

図表12 実際の子どもの数が理想の数より少ない理由[複数回答]



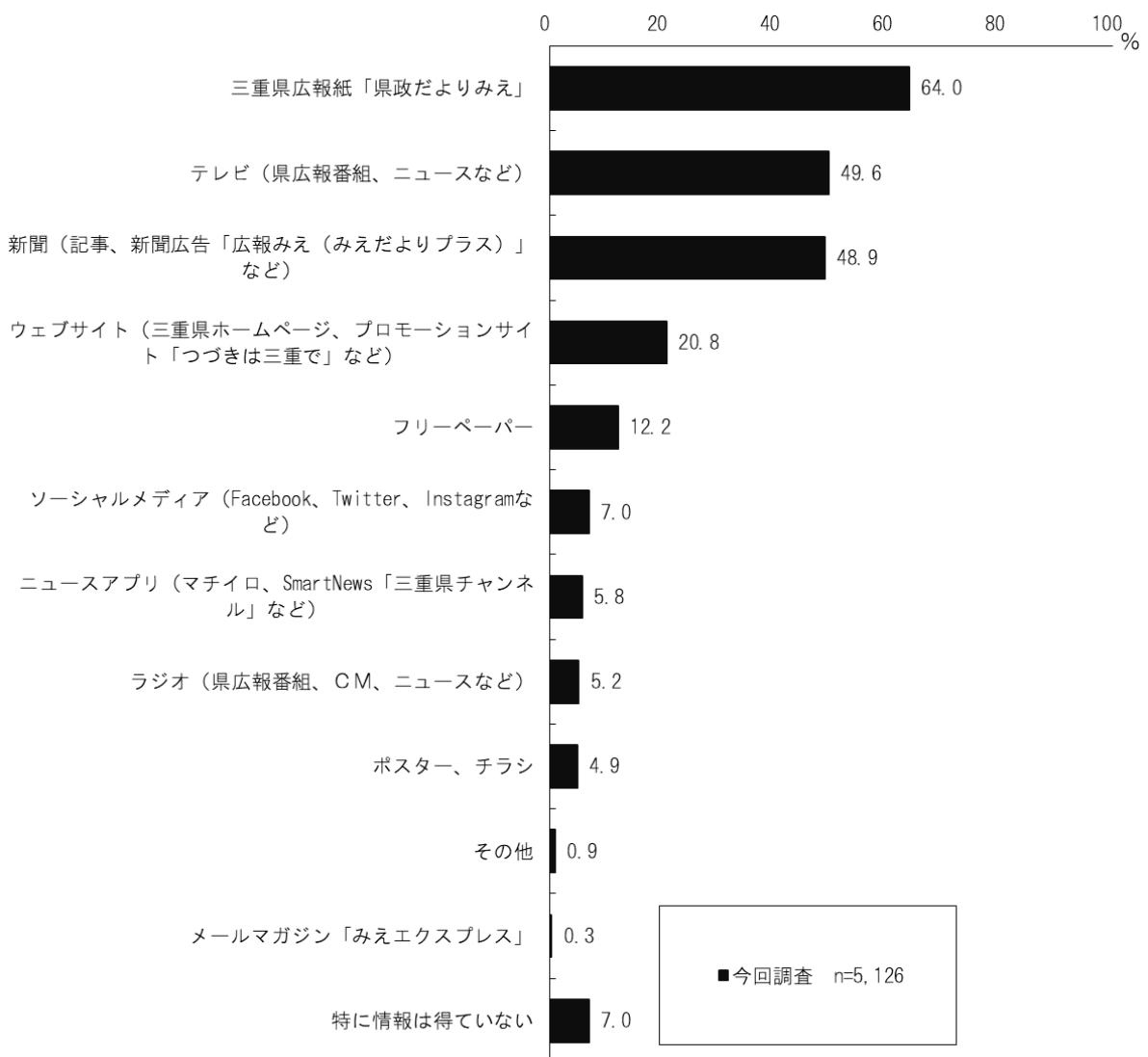
4 県政の情報の入手等に関すること

(1) 県が提供している情報の入手方法について

問15 あなたは、県が提供している情報を特にどこから得ていますか。(〇は3つまで)

- 県が提供している情報の取得方法について聞いたところ「三重県広報紙『県政だよりみえ』」(64.0%)、「テレビ(県広報番組、ニュースなど)」(49.6%)、「新聞(記事、新聞広告『広報みえ(みえだよりプラス)』など)」(48.9%)の順に高くなっています。

図表13 県が提供している情報の入手方法[最大3つまで回答]

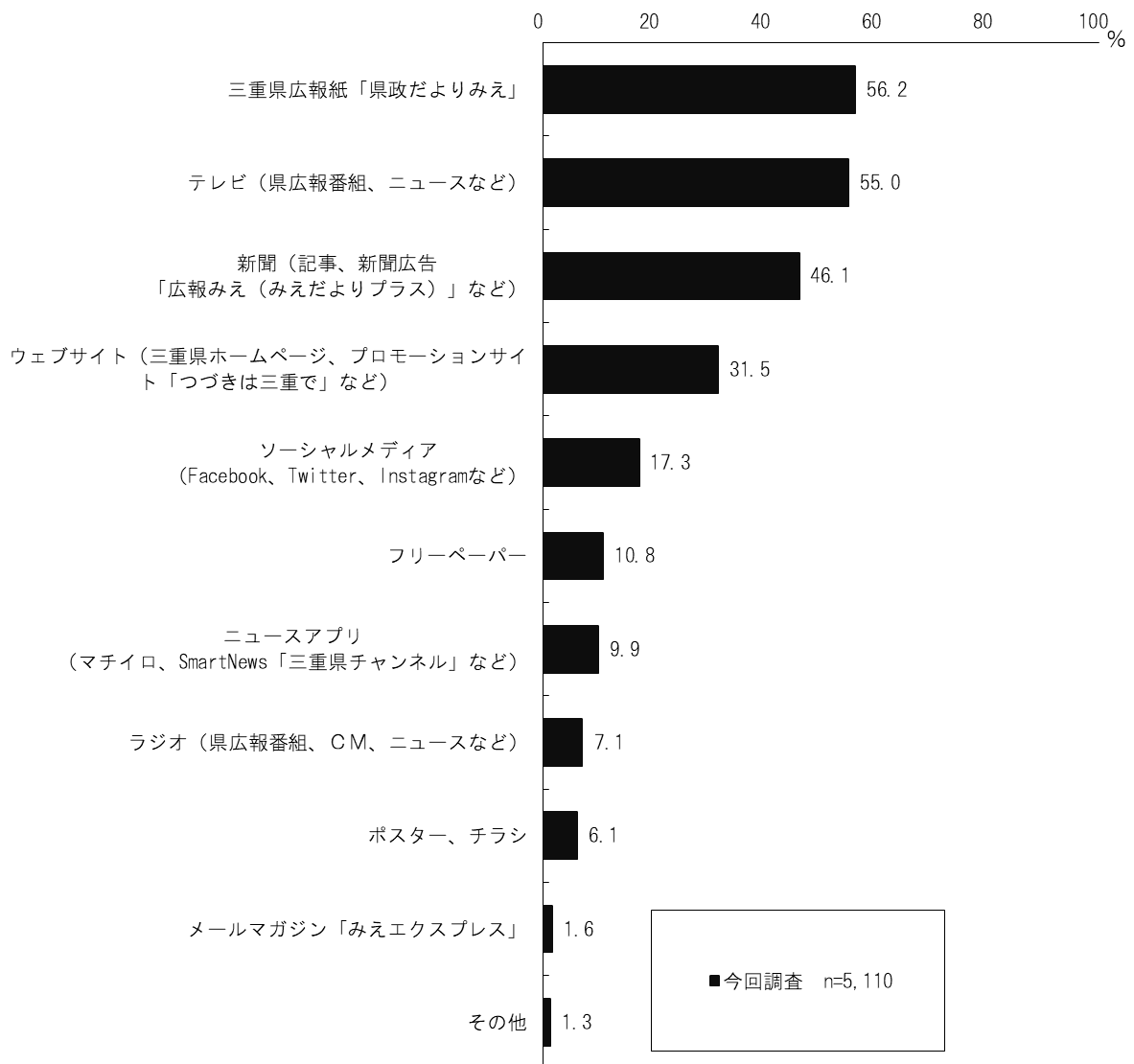


(2) 県の情報の入手方法で有効だと考える手段について

問16 あなたが県の情報を入手するとき、どのような手段が有効だと思いますか。(〇は3つまで)

- 県の情報の入手方法で有効だと考える手段について質問したところ、「三重県広報紙『県政だよりみえ』」(56.2%)、「テレビ(県広報番組、ニュースなど)」(55.0%)、「新聞(記事、新聞広告『広報みえ(みえだよりプラス)』など)」(46.1%)、「ウェブサイト(三重県ホームページ、プロモーションサイト「つづきは三重で」など)」(31.5%)の順に高くなっています。

図表14 県の情報の入手方法で有効だと考える手段[最大3つまで回答]



(3) 県政への意見、要望、提案などを、どのような方法で提出したいかについて

問17 あなたは、県政への意見、要望、提案などを、どのような方法で提出したいですか。(〇は3つまで)

- 県政への意見、要望、提案などを、どのような方法で提出したいかについて聞いたところ、「アンケート（みえ県民意識調査、eモニターなど）」(75.9%)、「ソーシャルメディア（Facebook、Twitter、Instagramなど）へのコメント」(25.5%)、「県庁への電話やメール（県民の声相談室、県庁各課への電話やメール）」(24.3%)の順に高くなっています。

図表 15 県政への意見、要望、提案などを、どのような方法で提出したいか [最大3つまで回答]

